

## 平成 25 年度 第 1 回 環境水理部会 議事録

時間：平成 25 年 9 月 6 日（金） 12:00～14:00

場所：日本大学津田沼キャンパス 39 号館 505 教室

出席者（敬称略）：角哲也，宮本仁志，赤松良久，大石哲也，石塚正秀，井芹寧，井上徹教，  
（出席者 [ ]）梅田信，太田誠二，大橋伸之，工藤健太郎，齋田倫範，櫻井寿之，重枝未玲，  
新谷哲也，鈴木準平，鈴木伴征，竹林洋史，田代喬，都築隆禎，中山恵介，  
中山忠暢，長尾正之，藤野毅，鶴田泰士，矢島啓，矢野真一郎，湯浅岳史，  
横山勝英

（オブザーバー）今村正裕，大槻順朗，田井明，土屋十圀，鶴田舞，二瓶泰雄（順不同）

議題：

### <資料>

- ・議事次第
- ・部会名簿
- ・2013 環境水理部会 シンポジウム案（その 1）
- ・「樹林化現象の類型化」に関するワーキンググループ（樹林化 WG）
- ・平成 25 年度 第 1 回 水工学委員会（報告資料）
- ・水シンポジウム開催概要一覧
- ・第 19 回水シンポジウム 2014 in ながさき スケジュール（案）

## 0. 部会員のあいさつ

### 1. 報告事項

- 1) H25 年度研究集会報告（一ノ関、気仙沼）（横山委員）
- 2) 教科書 WG 活動報告（角部会長（二瓶オブザーバ代理））
- 3) 流域圏 WG 活動報告（赤松幹事）

- ・平成 25 年 12 月 11 日、12 日 東京近郊を予定
- ・流域圏シンポは、4 回目で最終回となる。

ゴミというテーマで行うということだが、流木をゴミというのは抵抗あり。浮遊物質の方がよいのでは。

生態的な視点からみると、流木はバイオマス、マイクロハビタット、海では物質輸送の原資になっている。環境水理部会では、ゴミと言わない視点で整理してはどうか。

再度考え直す。

### 4) 樹林化 WG 活動報告（宮本副部会長・兼 WG リーダー）

- ・新規 WG の立ち上げとなる。
- ・植生関連の論文集 約 300 編を環境水理部会の web に登録
- ・研究者＋管理者の視点を盛り込んだデータベース作成のフォーマット作りをやりたい。
- ・キックオフミーティングを 11 月行う予定である。
- ・随時参加者を募集するので、参加されたい方は宮本まで。

来年の研究集会のセッションテーマとして考えてみてはどうか。  
セッションの1つとなればあればありがたい。

## 5) 水工学委員会報告 (角部会長)

- ・ 水文部会は、委員会のメンバーは部会のメンバーにならない。部会の方で委員会報告を受ける形をとっている。
- ・ 30年経たダムは再点検するという動きがある。
- ・ 水工学講演会の発表は 平成26年3月4, 5, 6日
- ・ 国際対応委員会：国際会議を日本で招致した時に LOC をどうするか。学会を利用したりし、情報の共有サポート体制を強化する取り組みが考えられている。
- ・ 水害対策小委員会が立ち上げられた。災害が発生したときに、調査団を派遣するサポート、調査、勉強会、消防との連携を行う。今年度は、東北で2件、中国で1件対応をした。活動費は寄付から出されている。今後も活動を続けて行くが、保険の話など、活動の枠組み作りを2, 3年以内に強固なものとしたい。
- ・ 渇水と洪水は一緒に来る。といわれるように、暑くなり少雨となると、陸上では渇水となり、海水では海水温が高くなる。このため、海上で台風の勢力が大きくなるという構図が読み取れる。水文関係の研究も注視してもらえれば良いかと思う。

## 2. 審議事項

### 1) H26年度研究集会について (大石幹事)

来年度は岐阜の共生センターで行うことが決まった。今後、3月の部会に向けて、日程、開催案を詰め、事前にメールで情報提供を行っていく。

### 2) H26 水シンポジウムについて (角部会長)

- ・ 学会、県の方がおられるので動きやすくするのに苦労した。
- ・ NPO、住民、学会との協働、繋がりが大事な役割であった。
- ・ テーマについては、こちらで立ち上げて県とのすり合わせをする。
- ・ 次年度の水シンポは、2つの分科会(「長崎水害」と「利水・環境」)を想定している。
- ・ 玄界灘では海砂が採取され、環境問題が起きているようである。竹原沖だと水深40mまで砂を採っており、岩が出て魚の住処が減少している。貧酸素の話までは起きていない。
- ・ 長崎は、大きな川がなく雨水を上手に蓄えてきたという歴史がある。今回のテーマで、エネルギーも入れたかったが、流域が小さく、水が貯め難いのであまり発電所がない。
- ・ 諫早干拓を意識した人もくることが予想されるので、Q&Aを想定しておいた方が良いと思う。

## 3. その他

2014.3 部会@神戸大

2014.5or 6 研究集会(6/5,6 以外)：研究集会 60名 程度の集会になる

以上